



2026年12月期第2四半期（中間期） 決算補足説明資料

2026年8月6日

株式会社イトーキ（東証プライム：7972）



目次

1. 2026年12月期第2四半期（中間期）決算概況
2. 2026年12月期通期業績見通し
3. ワークプレイス事業
4. 設備機器・パブリック事業

過去最高値（中間期およびQ2四半期）を更新

売上高 : 8.9%増収（5期連続・中間期）

設備機器・パブリック事業において、主に研究施設向け設備の増収により想定通りに推移

営業利益 : 9.5%増益（2期連続・中間期）

増収効果と利益率良化により想定通りに推移

ワークプレイス事業

- ・ ハイブリッドな新しい働き方にあわせたりニューアル案件を中心に**増収**
- ・ 売上高が堅調に推移し増収となったものの、販売費及び一般管理費の増加により、**減益**

設備機器・パブリック事業

- ・ 研究施設向け設備が好調に推移し、**大幅増収**
- ・ 研究施設向け設備における増収効果、利益率の良化により、**大幅増益**

A photograph of a modern office interior. In the foreground, there is a long, light-colored wooden counter or reception desk. To the right, a set of stairs with a light-colored carpet leads upwards. The background shows a bright, open-plan office space with large windows and indoor plants. The overall atmosphere is clean, bright, and professional.

1. 2026年12月期第 2 四半期（中間期）決算概況

2026年12月期第 2 四半期（中間期） 連結業績



2026年1月1日～2026年6月30日 単位：億円

【 連結 】	25/12 第 2 四半期		26/12 第 2 四半期		増減		通期予想	
	金額	売上比	金額	売上比	金額	増加率	金額	進捗率
売上高	792	—	863	—	+70	+8.9%	1,675	51.5%
売上原価	453	57.3%	489	56.7%	+35	+7.9%	—	—
売上総利益	338	42.7%	373	43.3%	+34	+10.3%	—	—
販管費	232	29.3%	257	29.8%	+24	+10.7%	—	—
営業利益	106	13.4%	116	13.5%	+10	+9.5%	160	72.7%
経常利益	104	13.2%	115	13.4%	+10	+10.3%	160	72.4%
親会社株主に帰属する中間純利益	69	8.8%	77	9.0%	+7	+11.3%	112	69.2%

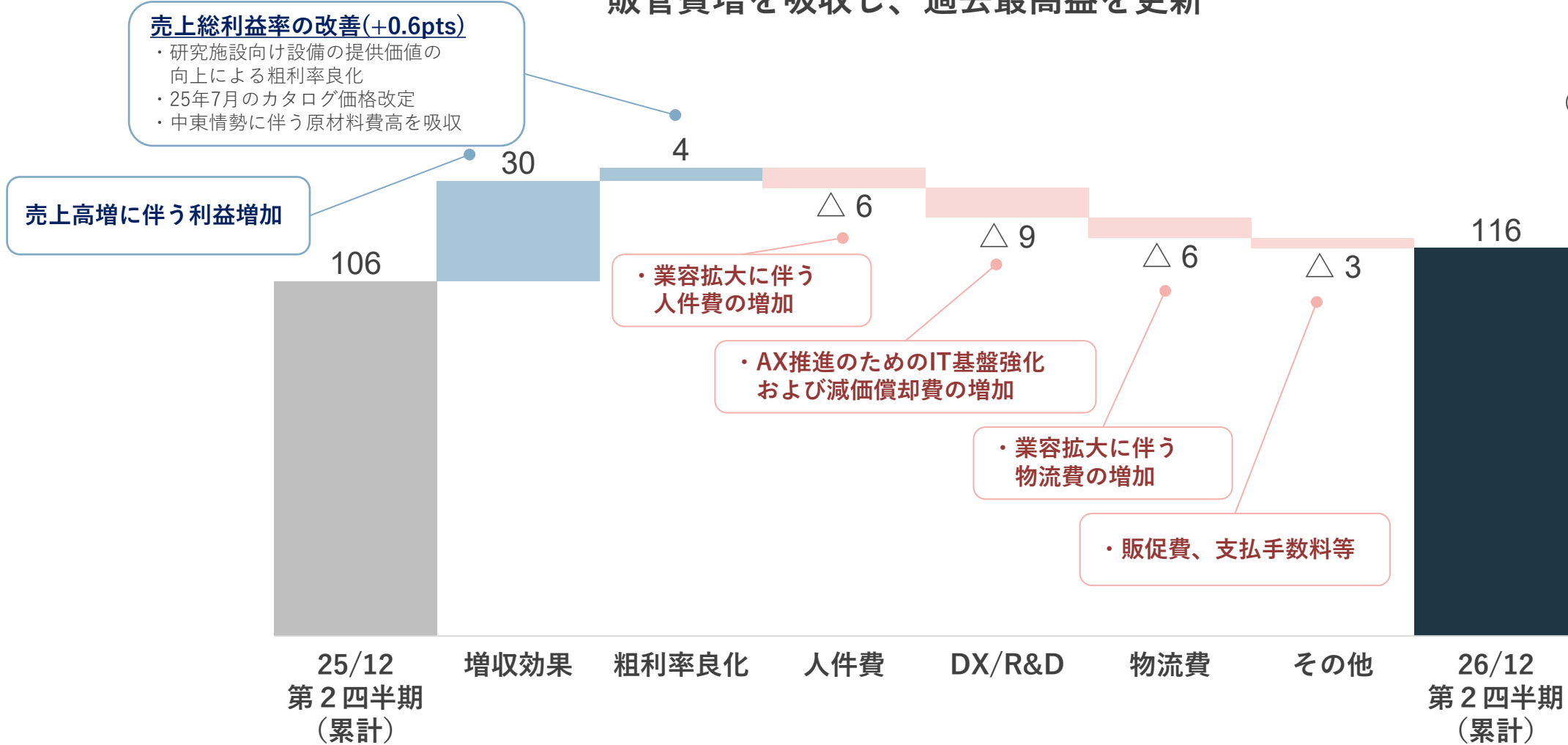
【 セグメント 】		25/12 第 2 四半期		26/12 第 2 四半期		増減		通期予想	
		金額	売上比	金額	売上比	金額	増加率	金額	進捗率
ワークプレイス事業	売上高	585	—	623	—	+37	+6.5%	1,215	51.3%
	営業利益	83	14.2%	80	12.9%	△3	△3.6%	136	59.0%
設備機器・パブリック事業	売上高	198	—	231	—	+32	+16.6%	443	52.4%
	営業利益	22	11.2%	35	15.3%	+13	+59.6%	22	161.1%
(内訳) ダルトン	売上高	117	—	139	—	+21	+18.6%	230	60.7%
	営業利益	18	15.4%	25	18.6%	+7	+43.1%	15	173.0%

※ダルトンは、ダルトン連結

営業利益の増減要因（前年同期からの分析）

ワークプレイス事業および研究施設向け設備の売上増加、粗利率良化により
販管費増を吸収し、過去最高益を更新

（単位：億円）



連結貸借対照表およびキャッシュ・フロー計算書サマリー



単位：億円

連結貸借対照表要旨	2025年12月末	2026年6月末	増減	摘要
流動資産	794	806	+12	現金及び預金等の増加
固定資産	512	495	△17	繰延税金資産等の減少
資産合計	1,307	1,301	△5	
流動負債	495	451	△44	支払手形及び買掛金、電子記録債務等の減少
固定負債	243	229	△14	長期借入金等の減少
負債合計	739	681	△57	
株主資本合計	541	584	+43	
純資産合計	568	619	+51	

連結キャッシュ・フロー計算書要旨	2025年中間期実績	2026年中間期実績	摘要
営業活動によるキャッシュ・フロー	40	40	
投資活動によるキャッシュ・フロー	△24	△11	本社ショールーム（IDH）及び工場への設備投資による支出
フリーキャッシュ・フロー	15	28	
財務活動によるキャッシュ・フロー	9	△15	配当の支払等
現金及び現金同等物の増減額	25	13	
現金及び現金同等物の中間期末残高	240	221	

A modern office interior featuring a long, light-colored wooden table in the foreground, a staircase with a wooden railing to the right, and various indoor plants. The ceiling has exposed wooden beams and modern lighting fixtures. The overall atmosphere is bright and airy.

2. 2026年12月期通期業績見通し

2026年12月期 業績予想



2026年1月1日～2026年12月31日 単位：億円

【 連結 】	2025年12月期 実績	2026年12月期 予想	増減	
			金額	増加率
売上高	1,536	1,675	+139	+9.0%
営業利益	136	160	+24	+16.9%
経常利益	137	160	+23	+16.5%
親会社株主に帰属する当期純利益	93	112	+19	+19.4%
〔営業利益率〕	〔8.9%〕	〔9.6%〕	—	〔+0.7pts〕

【 セグメント 】		2025年12月期 実績	2026年12月期 予想	増減	
				金額	増加率
ワークプレイス事業	売上高	1,115	1,215	+100	+9.0%
	営業利益	109	136	+27	+23.7%
	〔営業利益率〕	〔9.9%〕	〔11.2%〕	—	〔+1.3pts〕
設備機器・パブリック事業	売上高	405	443	+38	+9.4%
	営業利益	24	22	△2	△9.9%
	〔営業利益率〕	〔6.1%〕	〔5.1%〕	—	〔△1.0pts〕
(内訳) ダルトン	売上高	214	230	+16	+7.1%
	営業利益	17	15	△2	△13.1%
	〔営業利益率〕	〔8.0%〕	〔6.5%〕	—	〔△1.5pts〕

※ダルトンは、ダルトン連結

網掛けは過去最高

単位：百万円

	中間期（1月～6月）			
	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
2026年度	86,316	11,632	11,580	7,748
2025年度	79,244	10,625	10,497	6,960
2024年度	72,510	6,866	6,837	5,086
2023年度	68,190	7,002	7,095	4,707
2022年度	63,756	4,371	4,416	3,676
2021年度	61,635	2,973	2,830	2,290
2020年度	64,704	2,631	2,506	1,203
2019年度	63,672	1,927	1,936	965
2018年度	60,610	2,197	2,314	1,722
2017年度	59,111	3,760	3,927	2,680
2016年度	55,144	3,089	3,188	1,864
2015年度	55,684	3,387	3,513	2,631
2014年度	54,332	2,639	2,793	2,100
2013年度	55,113	3,431	3,589	2,634
2012年度	58,416	4,155	4,316	3,513
2011年度	45,067	1,494	1,839	724

単位：百万円

	第2四半期（4月～6月）			
	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
2026年度	39,092	3,543	3,486	2,210
2025年度	36,500	3,203	3,179	2,044
2024年度	31,592	827	822	985
2023年度	31,225	2,225	2,271	1,411
2022年度	28,411	407	442	288
2021年度	29,468	1,275	1,173	348
2020年度	26,997	▲ 370	▲ 376	▲ 557
2019年度	29,775	▲ 164	▲ 159	▲ 261
2018年度	28,112	▲ 142	▲ 64	149
2017年度	27,645	627	756	485
2016年度	25,694	814	893	314
2015年度	26,822	1,060	1,213	656
2014年度	24,369	89	194	▲ 373
2013年度	27,676	1,454	1,598	952
2012年度	30,863	2,199	2,235	1,504
2011年度	24,122	870	1,263	897

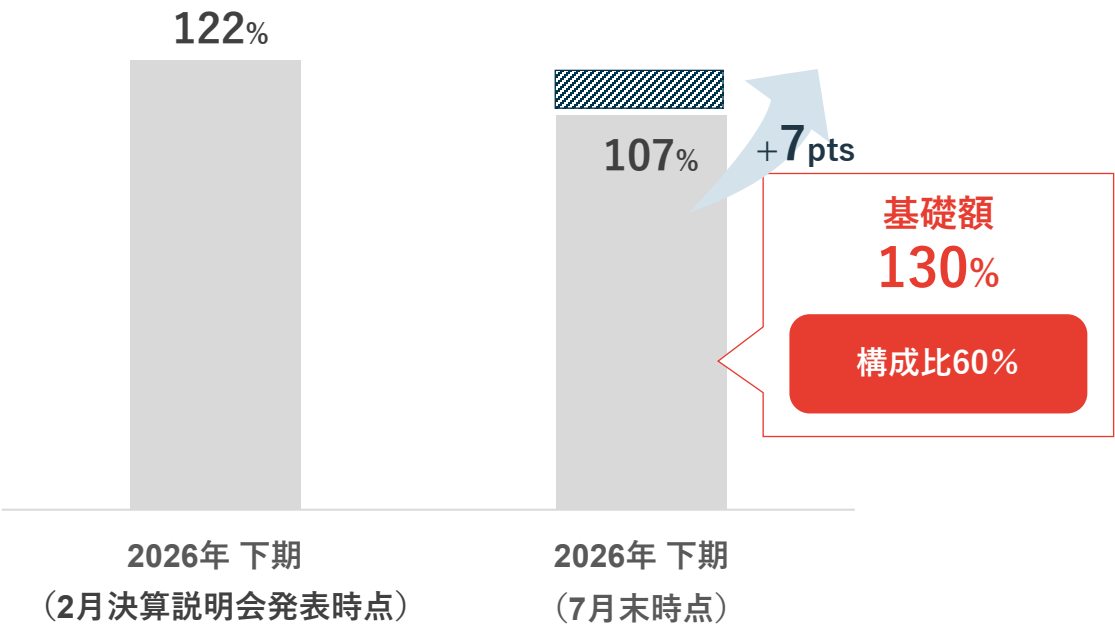
下期予想 売上812億円（前年同期744億円）、営業利益44億円（前年同期30億円）



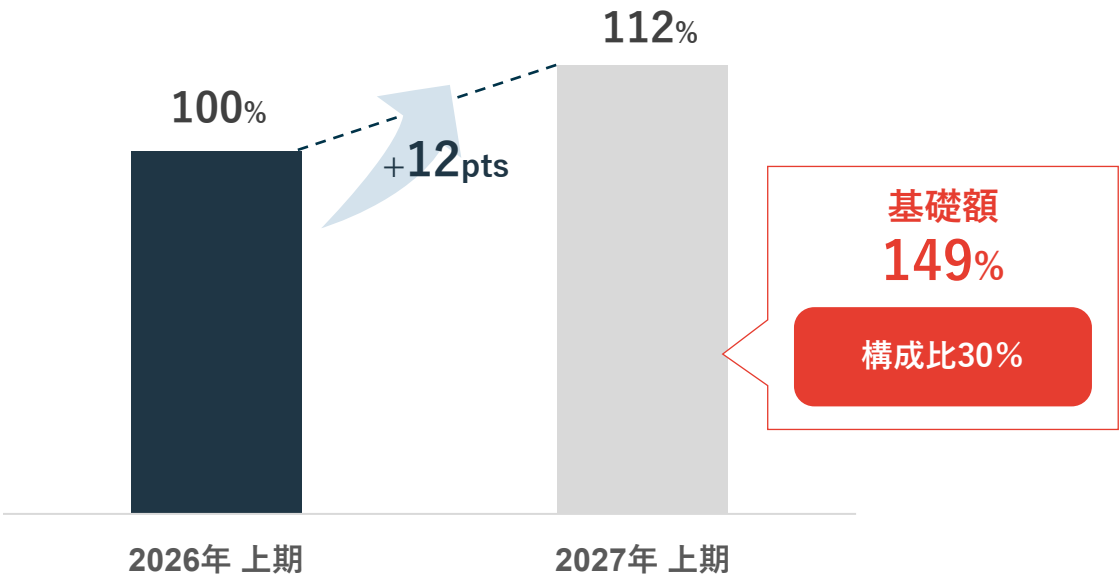
保有商談の状況（2026年7月末時点）

- ・ 国内ワークプレイス事業および設備機器・パブリック事業の合算（ダルトン含む・ターカス除く）
- ・ 前年同時期の保有商談額を100とした場合の当期保有商談割合：金額ベース
- ・ 基礎額＝内定＋契約済（受注残）

2026年度 下期

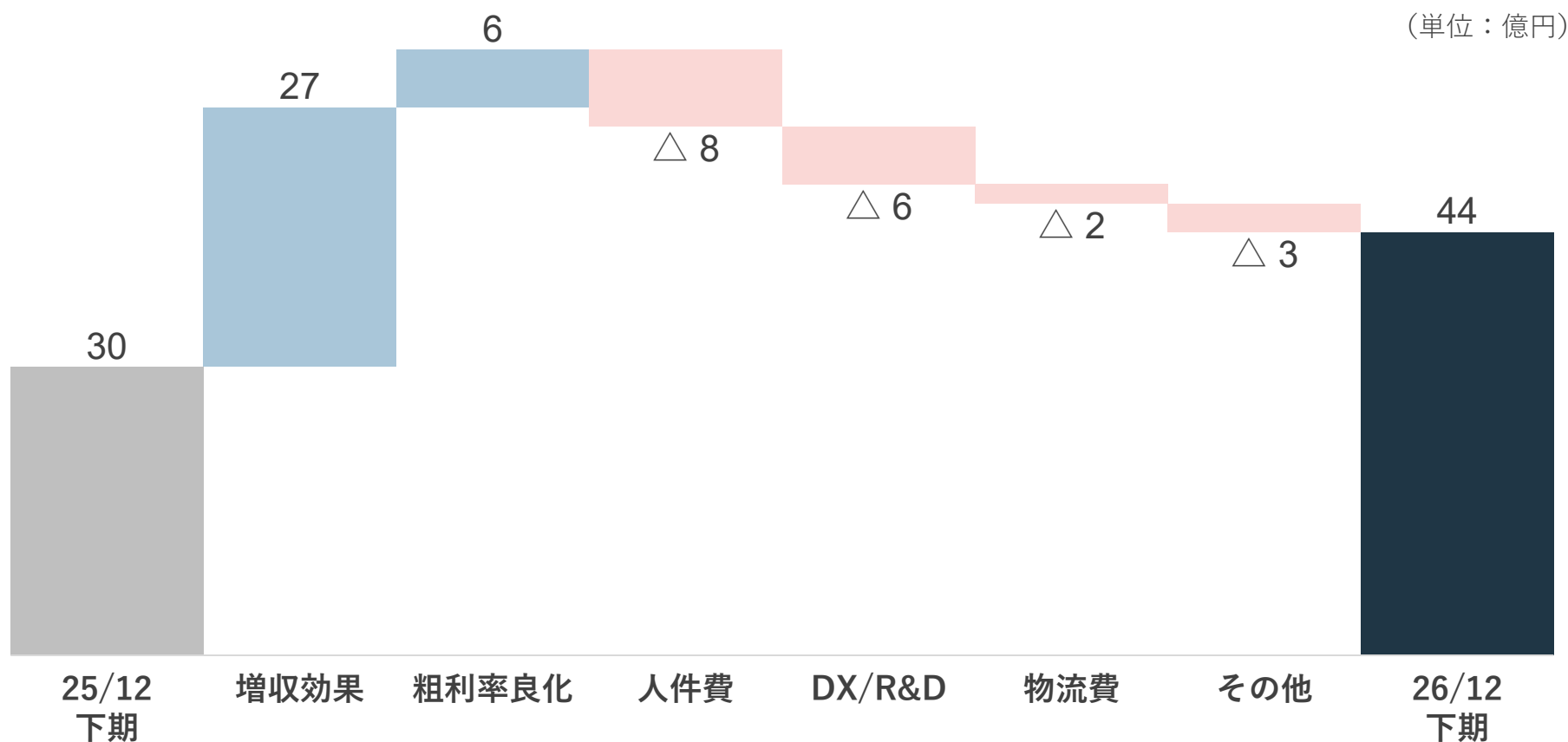


2027年度 上期



営業利益の増減見込み（前年下期比較）

2026年下期型であるワークプレイス事業、および好調な設備機器・パブリック事業の増収効果、粗利率良化に加え、想定通りである販管費のコストコントロールにより、
営業利益 下期44億円、年間160億円の達成を目指す



公的施設向け防災地下シェルター扉を初受注
新規領域への進出による来期以降の業績へ寄与



BOUNCEBACK®

災害大国日本で生まれた被災者に寄り添うマルチ防災シェルター扉

- ✓ 企画・設計から部品調達および組み立てまで、全て日本で完結した国内生産品
- ✓ 世界基準をリードする、耐衝撃・気密・水密・放射線遮蔽性能を実現
- ✓ 耐衝撃性能は400kPa（約40トン/㎡）
- ✓ 扉本体の重さ約1.4トンでありながら、女性や子供でも扱える開閉&締付システム

◀ 開発した地下シェルター向け特殊扉（日本核シェルター協会モデルルームに設置）

納入実績・
今後の展開

- 国内原子力発電所の創成期より全国に約3,000基の各種特殊扉を納入
- 日本核シェルター協会等と連携し、先行する各自治体向け営業活動を展開中

施設区分	施設数 ※令和7年4月1日現在
緊急一時避難施設	61,142
緊急一時避難施設（地下施設）	(4,233)
特定臨時避難施設（新設：先島諸島）	—

10%

需要値600～1,000億円

※イトーキ試算による推測値

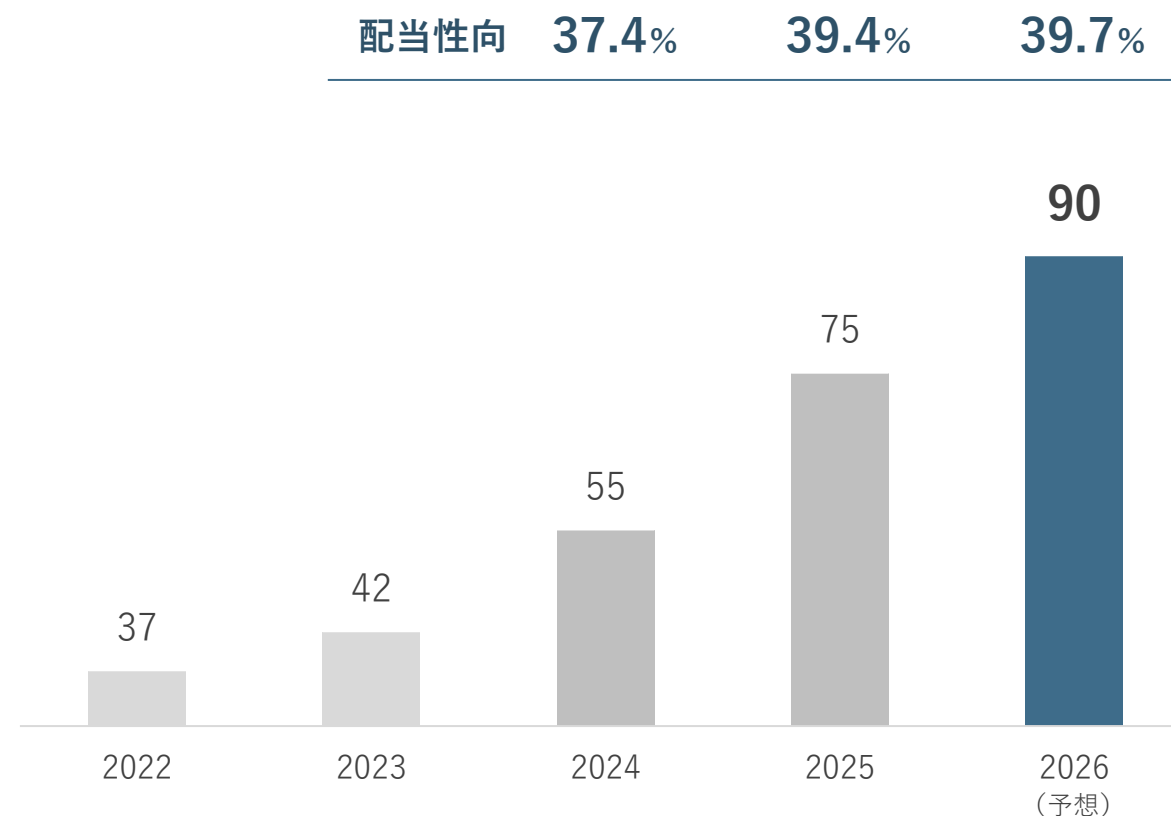
引用：内閣官房 国民保護ポータルサイト

株主還元方針

当社は、利益配分につきましては、経営の重点政策の一つとして認識し、会社の収益状況、内部留保の充実、今後の事業展開等を総合的かつ長期的に勘案したうえで、株主の皆様継続的かつ安定的に配当することとし、期末配当として年1回を行うことを基本方針としております。

今後の配分につきましては、更なる株主重視の経営を志向し、従来の安定配当に加えて連結業績を考慮するとともに、**配当性向40%を目指し**、配当政策を実施してまいります。また、内部留保につきましては、企業価値の向上を図るために、将来の成長に不可欠な研究開発や成長分野への戦略的な投資を中心に効率的に活用してまいります。

1株当たり年間配当金（円）の推移



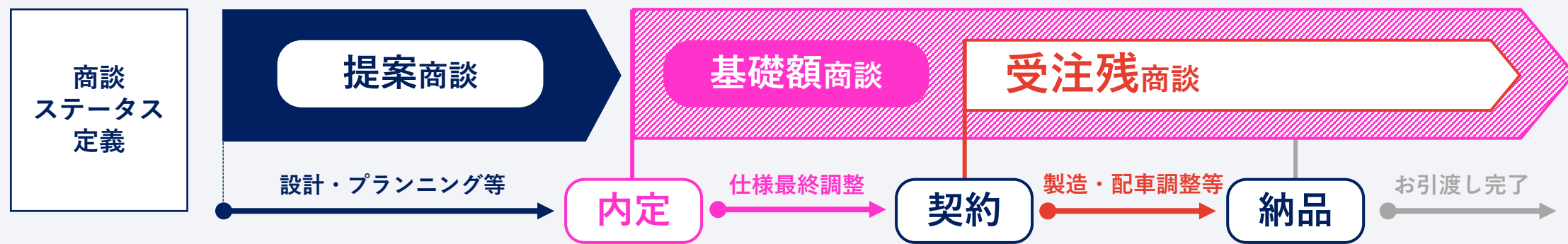
A photograph of a modern office interior. The space features long, light-colored wooden tables and chairs, some of which are occupied by people. A wide, light-colored wooden staircase is visible in the foreground. The ceiling is made of white acoustic panels, and the walls are also clad in wood. Large windows in the background let in natural light. The overall atmosphere is bright and airy.

3. ワークプレイス事業

国内ワークプレイス事業 15営業ブロックのうち、8ブロックの営業責任者を新任登用

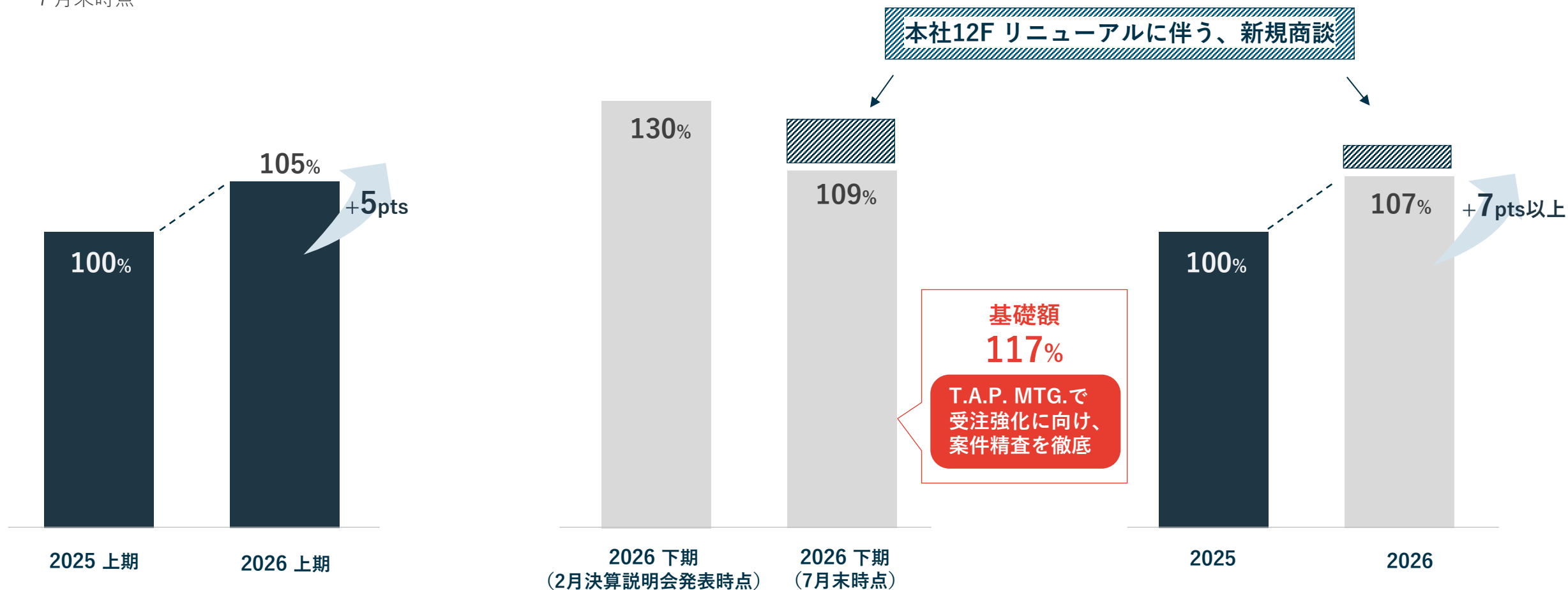


商談ステータス定義に基づく、**科学的案件マネジメントの徹底強化**



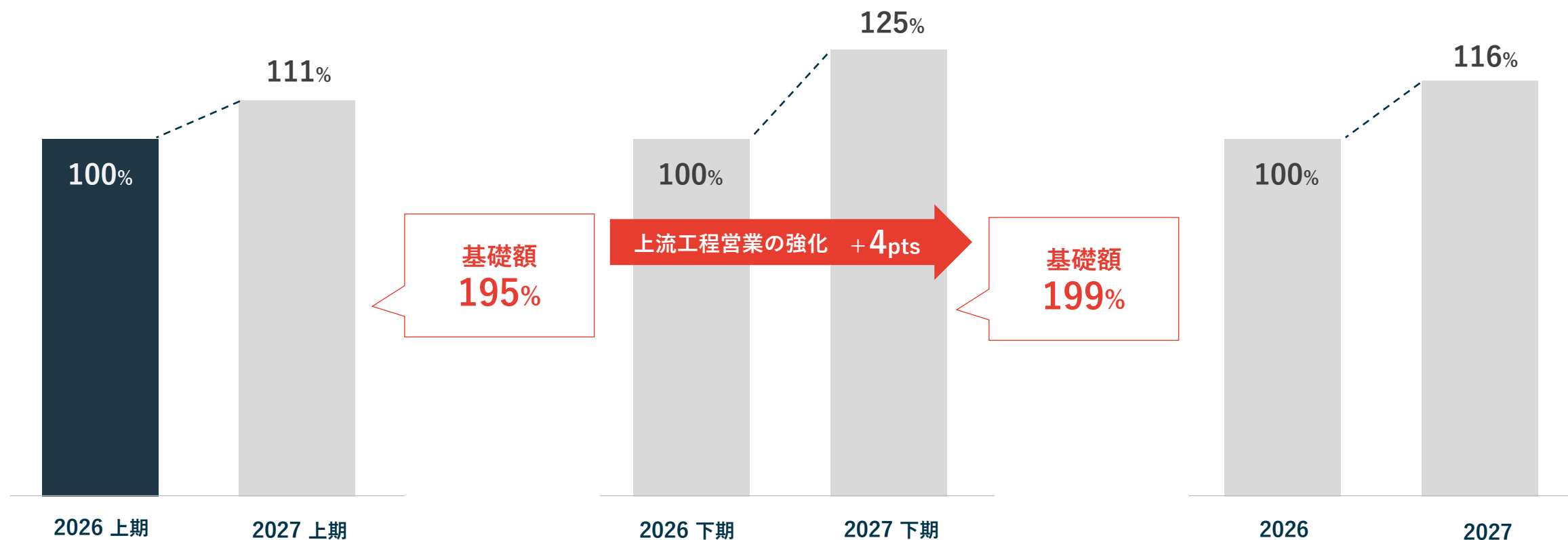
2026年度 保有商談の状況（国内ワークプレイス事業）

- ・ 国内ワークプレイス事業
- ・ 前年同時期の保有商談額を100とした場合の当期保有商談割合：金額ベース
- ・ 7月末時点

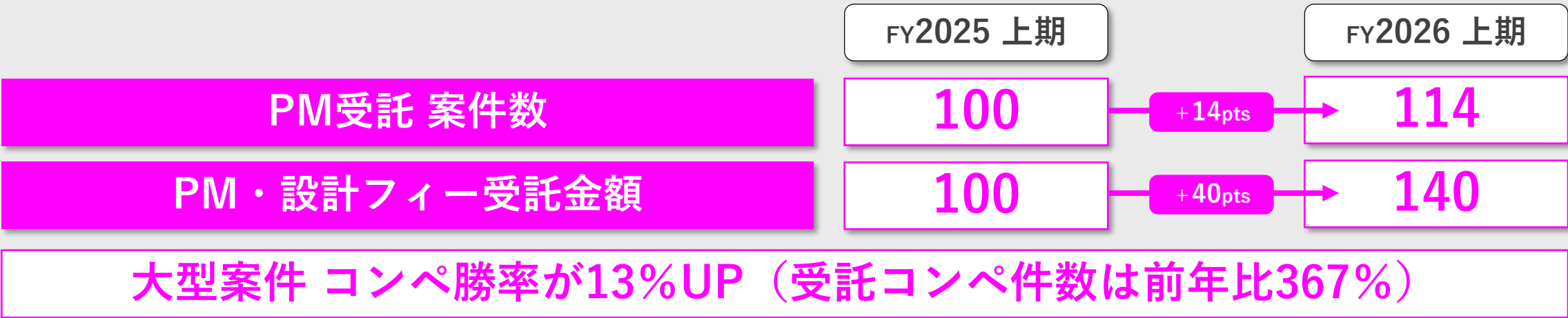


2027年度 保有商談の状況（国内ワークプレイス事業）

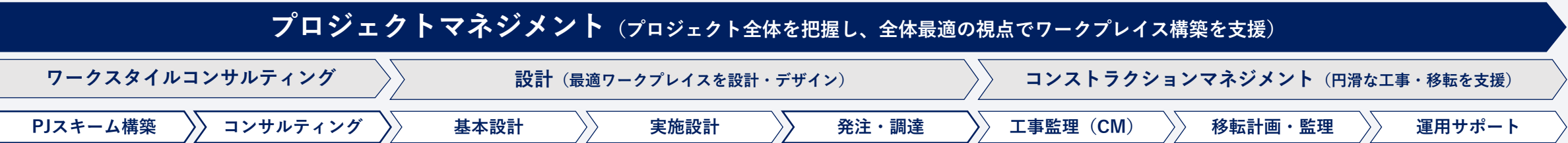
- ・ 国内ワークプレイス事業
- ・ 前年同時期の保有商談額を100とした場合の当期保有商談割合：金額ベース
- ・ 7月末時点



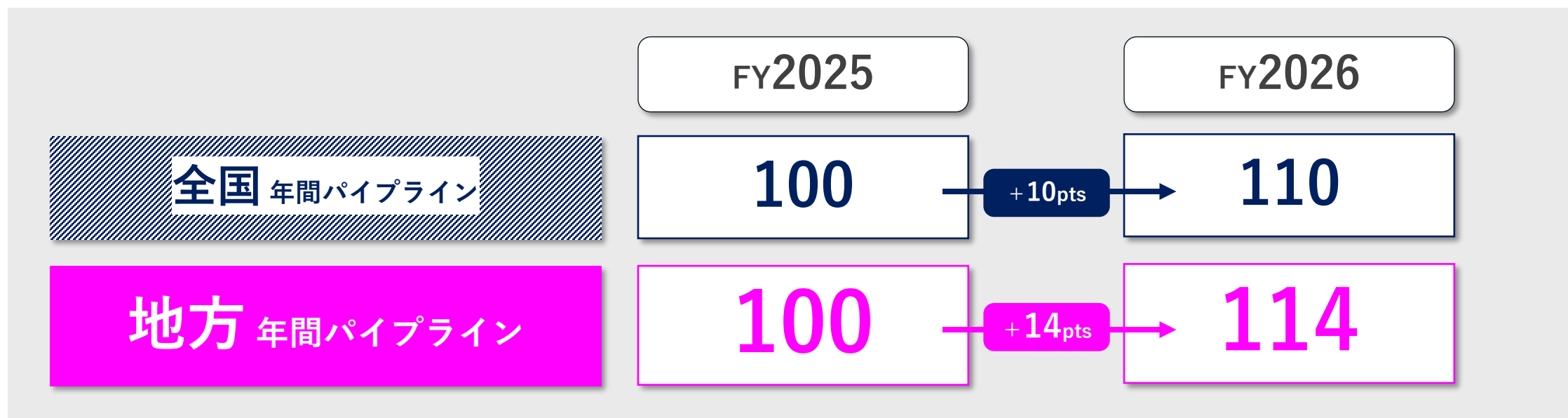
オフィス投資への上流工程営業を強化し、
プロジェクトマネジメント（PM/コンサル）・設計受託が拡大



<参考> 国内ワークプレイス構築 バリューチェーン図



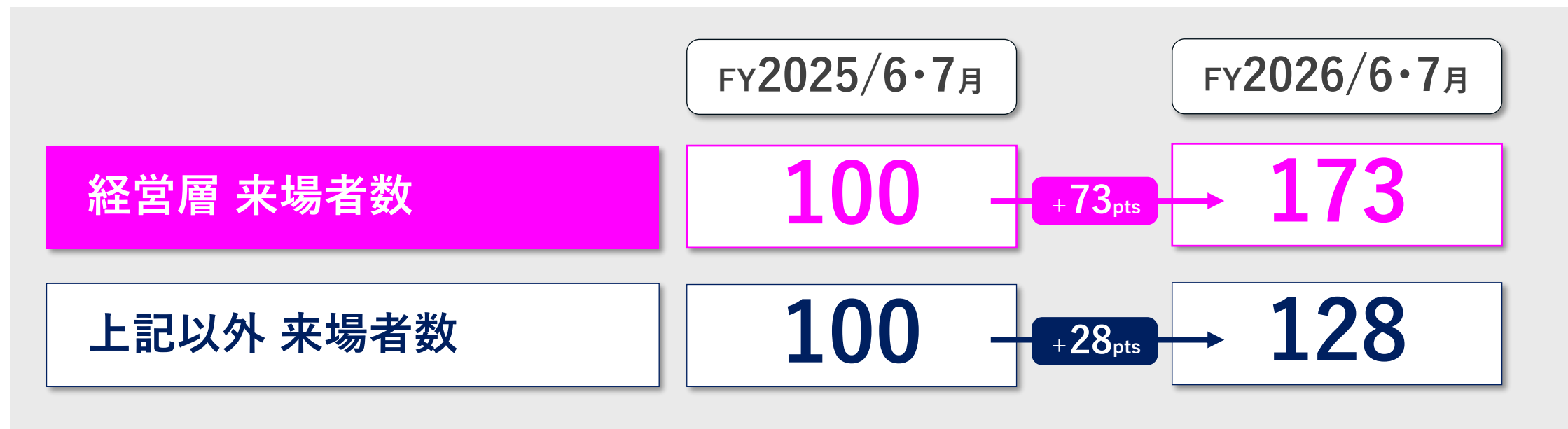
人的資本経営としてオフィス投資への関心は、
地方オフィスへの波及が浸透。



「働きたい」と感じられる魅力あるオフィスは、
地方エリアにおいても人材確保に不可欠な要素

6月 本社オフィス 12F全面リニューアルオープン

自社オフィスリニューアルの体験価値訴求に対して
経営層を中心とした来場者数が急増



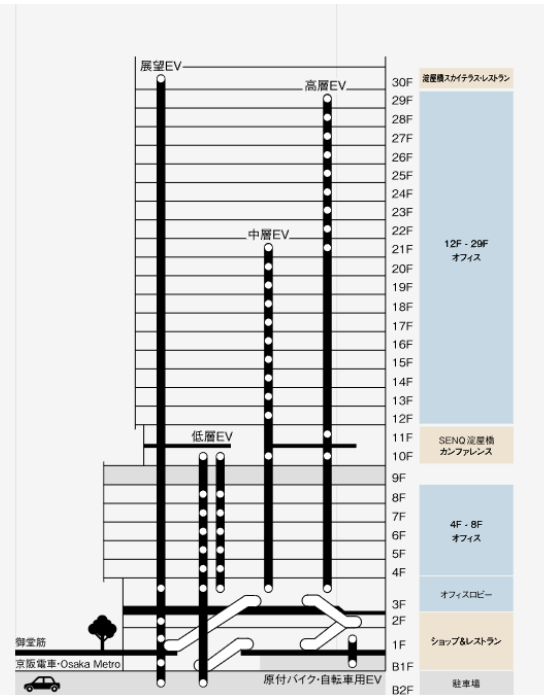
ITOKI DESIGN HOUSE
FUKUOKA

(2026/12 Open)



ITOKI DESIGN HOUSE OSAKA 2027 Open

Coming soon



A photograph of a modern office interior. The space features long wooden desks, a staircase with wooden steps, and a ceiling with exposed wooden beams and modern lighting fixtures. The overall design is clean and minimalist, with a focus on natural materials like wood.

4．設備機器・パブリック事業

設備機器・パブリック事業

株式会社ダルトンの 取り組みについて

株式会社ダルトン
代表取締役社長

澤田 正

2026年 8月6日

01

ダルトンの業績



2026年度 上期実績

売上 140億円 (前年比 119%)
営業利益 25 億円 (前年比 143%)

↑
付加価値・競争優位性
|

LAB
3.0

働き方ベースの
研究施設DXビジネス

データを活用した
研究施設運用サポート

LAB
2.0

空間ベースの
ソリューション提供ビジネス

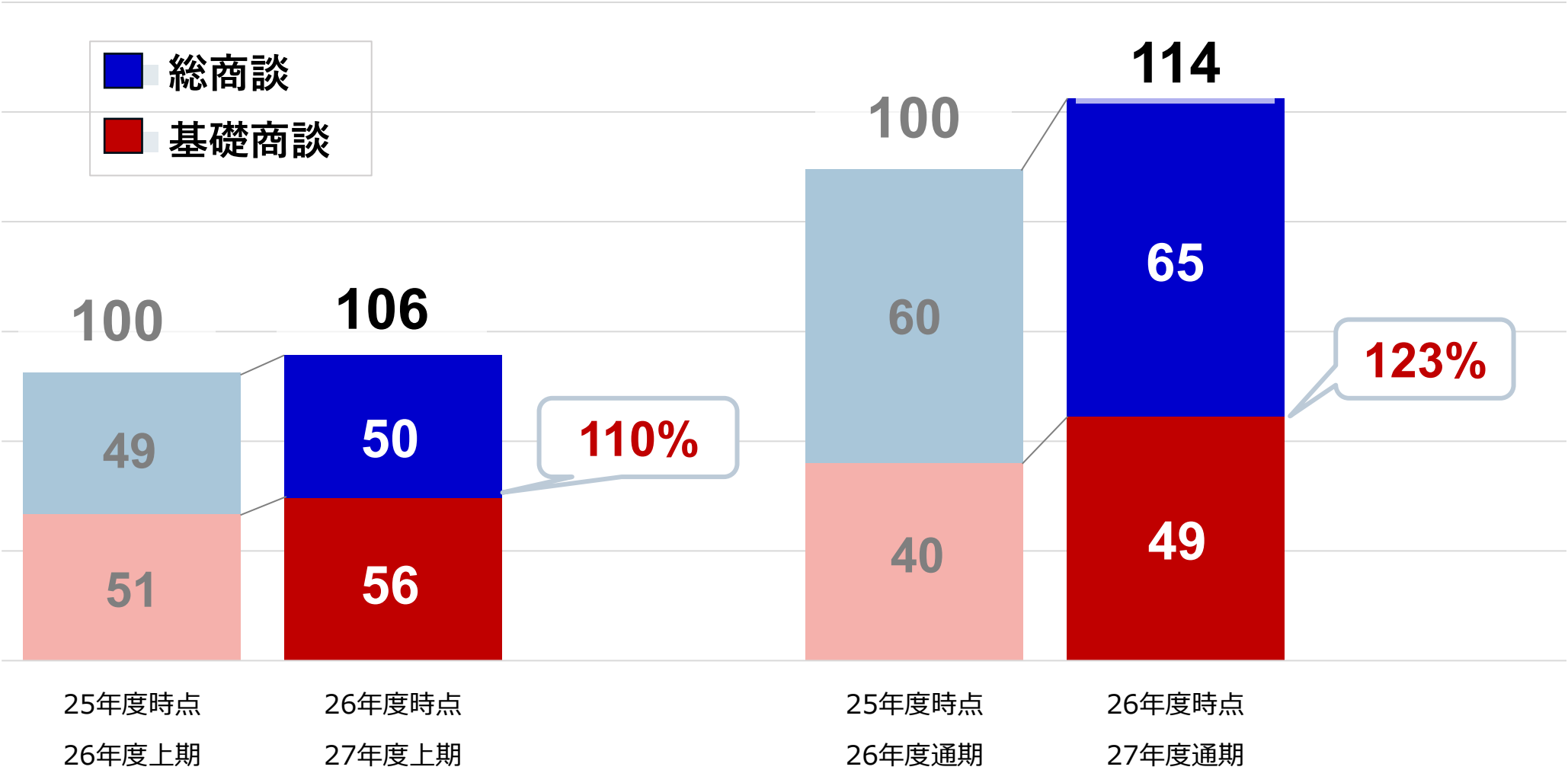
空間デザイン
働き方コンサル

LAB
1.0

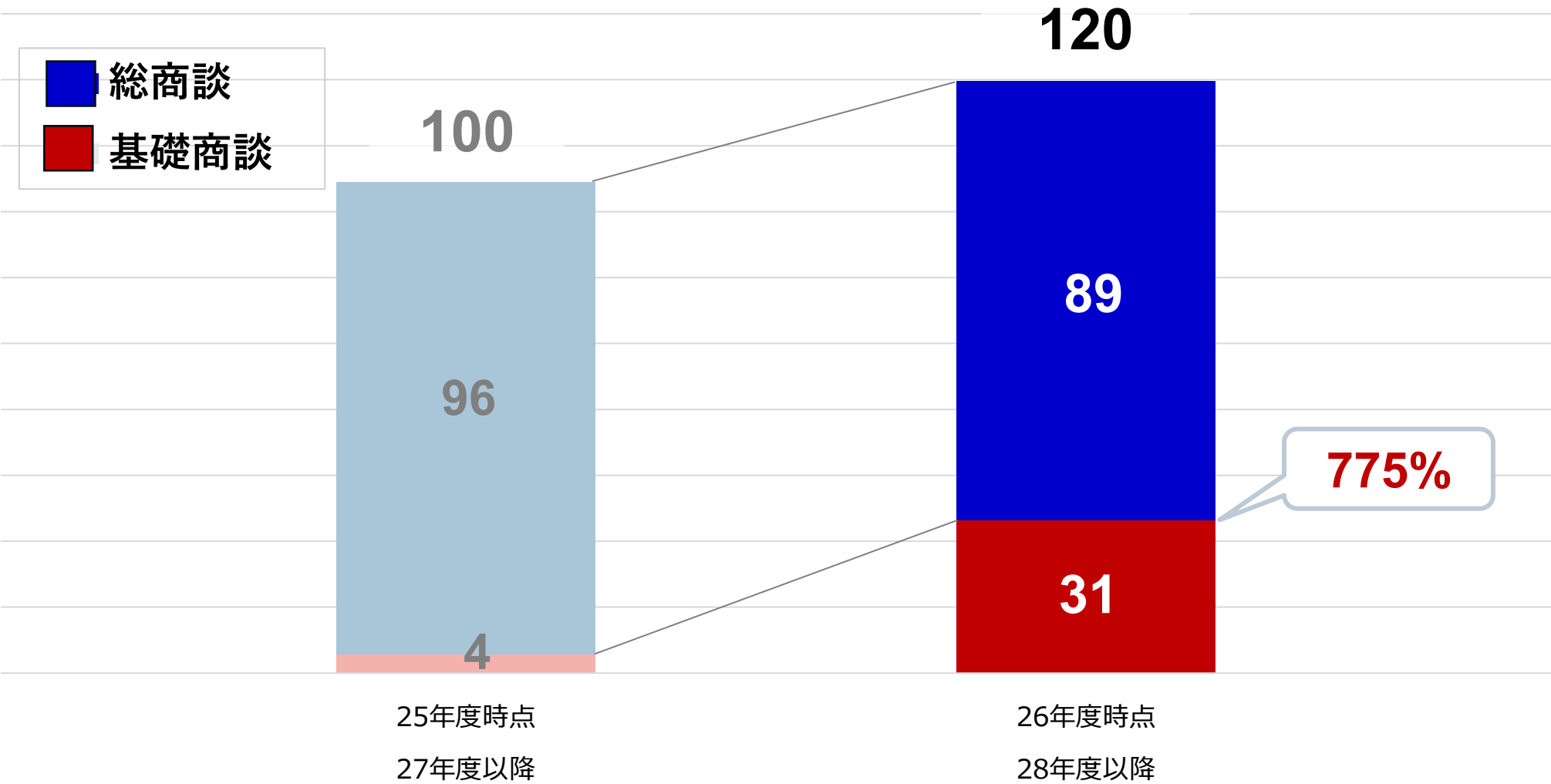
プロダクトベースの
商品販売ビジネス

差別化された
新商品群

来期 保有商談比較



再来期以降の保有商談比較



01

知的創造空間としての ラボづくり

理想のラボ実現に向けたコンセプト企画からコスト最適化までの全プロジェクトをコンサルティングし、グローバルレベルのラボを実現します。

研究施設



02

粉粒体加工の 生産システム構築

粉の性質を熟知したプロフェッショナルが、品質と安定性を備えたプラントを設計。プロセス全般にわたる課題に最適なソリューションを提供します。

粉体機械



03

安全と品質を生み出す 作業空間づくり

オペレーターと取扱物質、どちらにもやさしい作業空間の構築を、長年培った技術力で実現します。製作前のモックアップでベストな仕様を徹底的に追求し、真に求められる作業環境をお客様と共に創り出します。

クリーン機器



04

お客様のビジネスに 最適な装置の提供

半導体製造における剥離、洗浄、乾燥、メッキ、溶剤再生など、ウエハーや治具、用途に応じて、研究開発向けの少量生産用から量産機まで、前工程分野を中心に幅広い工程に対応できる製品を提供します。

半導体装置



02

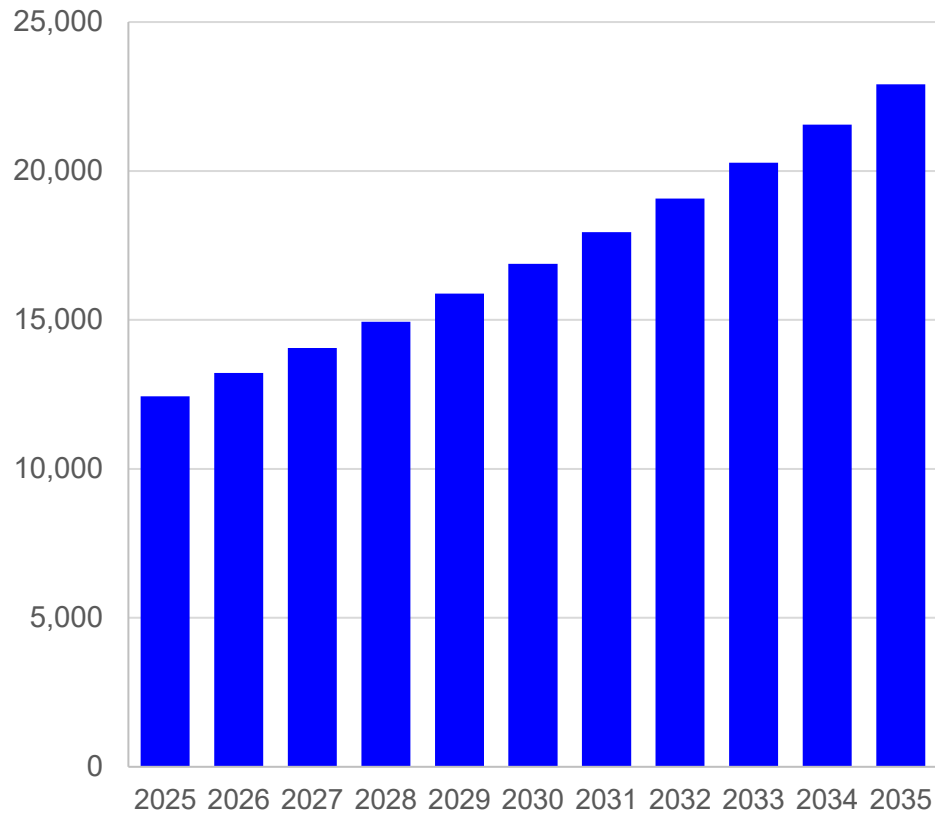
半導体装置事業の成長戦略

～半導体製造を支える ウェットプロセス・ソリューション～



半導体製造装置市場の動向

(億円)



(出展：ウェットプロセス機器市場 | グローバル市場分析レポート - 2035年
Future Market Insights)

AI時代の到来と環境対応が、新たな設備投資を牽引

■ AI・データセンター投資の拡大

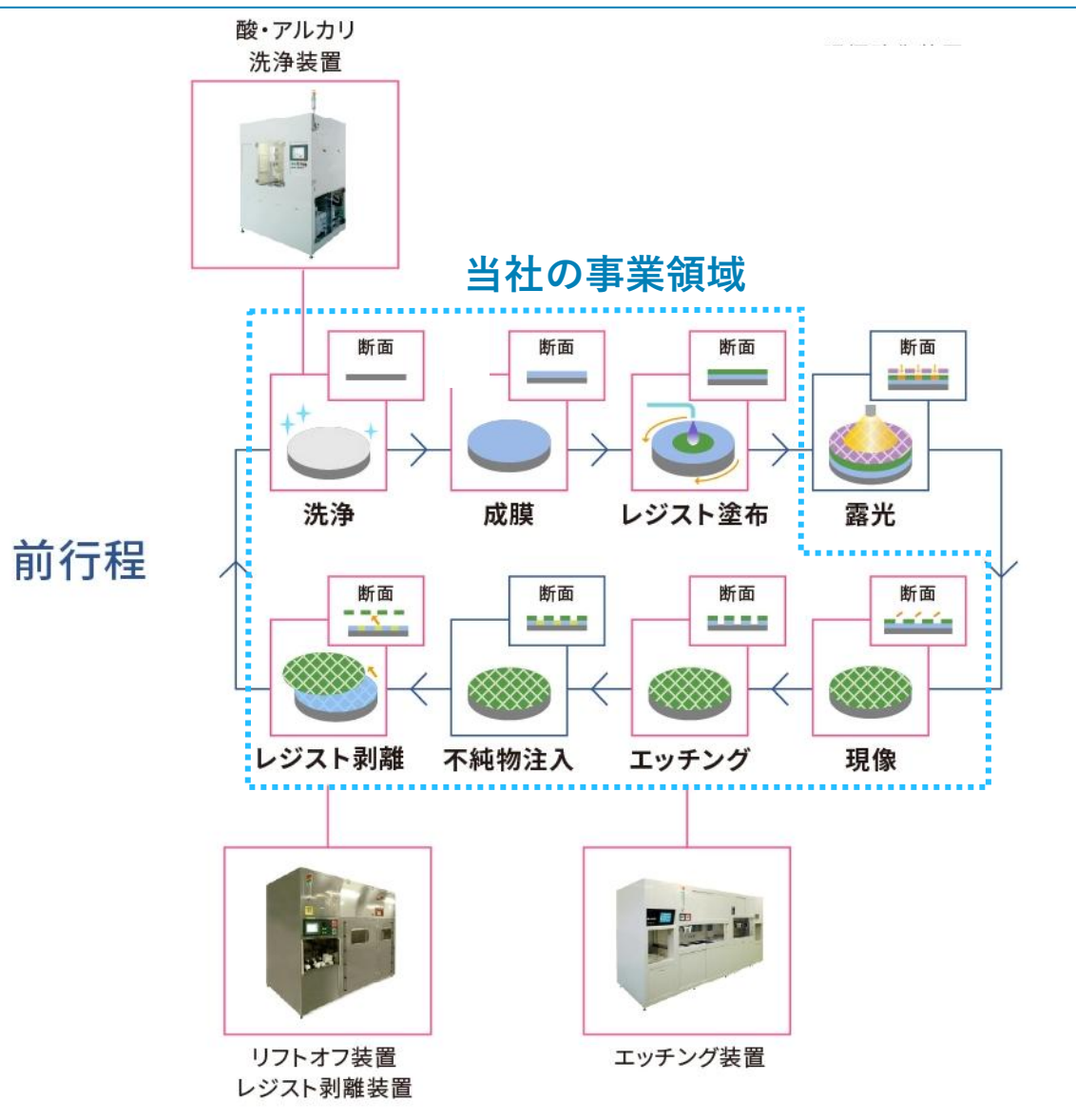
- 生成AIの普及により、GPU・HBM・AIアクセラレータ等の需要が急拡大
- 半導体生産量の増加に伴い、洗浄工程への投資も拡大
- 特に先端半導体では洗浄品質への要求が一段と高度化

■ 環境規制・サステナビリティ対応

- PFAS規制、排水規制、CO₂削減など環境要求が世界的に強化
- 半導体メーカー各社は薬液使用量や環境負荷の低減を推進
- 環境配慮型洗浄技術へのニーズが拡大

当社への示唆

- 半導体洗浄装置市場は中長期的な成長が期待される
- AI関連投資と環境対応投資の双方が追い風
- 当社が強みとする環境配慮型洗浄技術の市場機会が拡大



ダルトンの展開領域

ダルトンでは、

- ・ 前工程における“剥離”，“洗浄”，“乾燥”工程を中心としたウェットプロセスの製造装置をメインに、
- ・ 電解／無電解メッキ、レジスト塗布、現像、陽極酸化など多様な工程に適用できる装置ラインナップを展開

ターゲット市場

現在

化合物半導体向け
ウェット洗浄装置

- ・ LED
- ・ SAWフィルタ
- ・ センサ等のデバイス
メーカー中心

成長市場へ展開

- ・ AI、データセンター
向け先端半導体
- ・ パワー半導体
- ・ 先端パッケージ
(PLP)

ダルトン半導体事業の強み

半導体製造装置の歴史

35年

半導体製造プロセス向け装置を長年にわたり提供し、豊富なノウハウと技術知見を蓄積

国内有力メーカー納入実績

200社以上

国内有力半導体・電子部品メーカーを中心に幅広い顧客基盤を保有

対応力

カスタム

研究開発用途から量産設備まで、多様なプロセス要求に対応

テストセンター

評価・検証

テストからプロセス評価、量産立上げまで一貫して支援し、顧客の採用判断を後押し

洗浄技術

環境対応

薬液削減・省資源化に貢献する洗浄技術により、環境対応ニーズに対応



内製化

設計・製造・保守までをグループ内で担い、供給力と開発力を強化

成長分野へ集中



PLP市場

(Panel Level Package)
パネルレベルパッケージ

次世代パッケージング技術の拡大により、PLP向け洗浄プロセスへの投資が拡大。



PLP向けの国内有力CMPメーカーとのコラボレーションにより、PLP対応の洗浄装置を市場に供給。



CMP市場

(Chemical Mechanical Polishing)
化学機械研磨

先端デバイスの高精細化に伴い、CMP後の高品質な洗浄ニーズが拡大。



ウエハー向けの国内有力CMPメーカーとのコラボレーションにより、CMP後の高品質な洗浄装置を市場に供給。



環境対応市場

PFAS規制・排水規制・CO₂削減への対応が進み、環境対応技術への投資が拡大。



環境対応洗浄装置と高感度環境測定技術により、顧客の環境課題解決を支援。

今後の方向性

Semiconductor 1.0

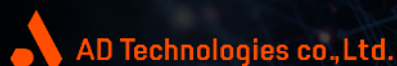
Semiconductor 2.0

装置販売からプロセスソリューション企業へ

FY26

ADテクノロジーズ設立

主力製品の内製化
➡ 真のメーカーへ



FY27

◆ テストセンター拡張

テストから検査まで一気通貫
の付加価値型モデルを提供
お客様の量産立上げを支援

◆ イトーキとの連携強化

保守メンテナンス体制強化

FY29

◆ 外部パートナーとの アライアンス

◆ 戦略的M & A

- 成長分野・差別化領域の
製品ラインナップ拡大
- 供給力強化



創造の、共創へ。

DALTON

明日の「働く」を、
デザインする。

We Design Tomorrow.

We Design WORK-Style.



The background image shows a modern office interior. On the left, there is a long, light-colored wooden table with a metal frame. To the right of the table, a staircase with a light-colored carpet and wooden handrails leads up. The ceiling is white with recessed lighting. The walls are made of light-colored wood. Large windows in the background let in natural light. The word "appendix" is centered in the middle of the image in a dark blue font.

appendix

2026年6月24日（水）に放送されたマーケット・経済専門チャンネル 日経CNBC 朝エクスプレス内の「トップに聞く」のコーナーに、当社代表取締役社長の湊 宏司が出演いたしました。

< 番組概要 >

- 日時
2026年6月24日（水）
- 放送局
日経CNBC
- 番組名・コーナー
朝エクスプレス「トップに聞く」



当日の動画



※弊社公式YouTubeチャンネルへ遷移します。

従業員数1.5倍、1人あたり面積35%減でも成果につながる 本社オフィスへ刷新

本社ワーキングショールーム「ITOKI DESIGN HOUSE TOKYO」約7,200㎡のうち、12階の約2,700㎡を4年ぶりにリニューアルしました。
今回のリニューアルでは、能力発揮度や位置情報のデータ分析をもとに、コンセプトに「人的資本の最大化、さらなる成果につなげる『チーム運用』の進化」を掲げ、ソロワークとチームワークをストレスなく行き来できる空間へ刷新しました。



Open Work Areaからのオフィス全体観

日本橋本社に設備機器・パブリック事業のショールーム エリアを新設し、事業横断提案を強化



高機能展示ケース「Artivista」（写真左）、薬剤自動ピッキングシステム「DAP with MediMonitor」（写真右）Photo：神宮巨樹（OOKI JINGU）

美術館・博物館の鑑賞体験向上を支える新型壁面展示ケース 「Artivista」を開発



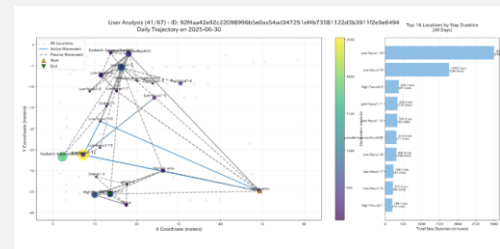
「Artivista」壁面展示ケース

AIエージェントとの連携でオフィス運用を最適化する「ITOKI OFFICE DEVICES」を開発



本ソリューションは、家具や会議室が「実際にどのように使われているか」をリアルタイムにセンシングし、オフィスリソースの予約データと連動、稼働状況を可視化する等、オフィスの稼働率や利便性を向上します。

イトーキと松尾研究所、ABWオフィスにおける移動の目的と生産性の関係を職種別に分析



本研究では、2025年12月の1か月間、当社本社オフィスに勤務する従業員945名の位置情報データや会議予約データをもとに、移動の質と生産性の相関を分析しました。その結果、会議などに伴う受け身の移動と、業務に応じた能動的な場所選択を区別して捉えることが、ABWオフィスの運用設計において重要である可能性が示されました。

AIを経営の中核に据え最高AI責任者「CAIO」を新設



AIを経営の中核に据えた変革を加速するため、最高AI責任者「CAIO（Chief AI Officer）」を新設し、2026年7月1日付で常務執行役員に昇任した竹内 尚志が、同日付で就任しました。

未利用資源を企業価値に転換するサステナブルデザインソリューション「Econifa UPCYCLE」を提供開始



これまで国産木材活用ソリューションとして展開してきた「Econifa」を「Econifa WOOD」として再定義し、新たに製造過程で出る副産物や未利用資源を再生・活用するソリューション「Econifa UPCYCLE」を展開します。

＜注意事項＞

- 当社の連結決算は日本会計基準を採用しております。
- 業績予想などは、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は今後のさまざまなリスクや不確定な要素などの要因により、異なる可能性があります。

＜IRに関するお問い合わせ＞
株式会社イトーキ
コーポレートコミュニケーション本部
IR・SR部 IR課

電話:03-6910-3910
E-mail:itk-ir@itoki.jp
<https://www.itoki.jp/company/ir/>

明日の「働く」を、**デザインする。**